

手あみを始めるとき、

どの作品にも最初に必ず作らなければならないのが作り目です。

作り目とは、あみものの「編み始め」になる目のことをいいます。



編みたい編み地の幅の3~3.5倍の毛糸を引き出し、左手の4本の指に毛糸を一周巻き付けます。



右手の人さし指を輪に入れ、写真のように糸をつかみます。



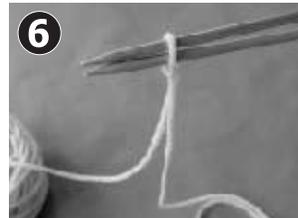
そのまま引き抜きます。



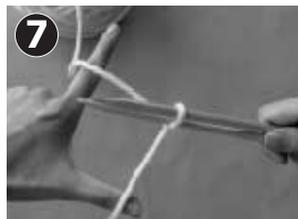
右手で引き抜いた糸は持ったままで、左手を抜きます。



両手で糸を引くと結び目ができます。



輪の中に針を入れます。糸の先端を引くと輪が小さくなり、これが1つ目の作り目になります。



あみ針を右手に持ち、左手の親指と人さし指を糸の間に入れます。このとき、糸玉に続く糸を人さし指に、短い方の糸を親指側にかけます。



親指と人さし指はそのまま、残りの指で糸端を握ります。手の甲を下に向けます。



矢印の順に糸をあみ針ですくっていきます。

⑨の針の動きを、もっと詳しく説明しましょう。



針先を親指の付け根におろし、指にそって糸をすくいます。



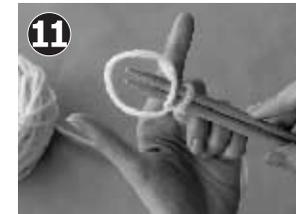
針先を矢印のように動かして、人さし指の糸をすくいます。



すくったら親指の糸の下をくぐります。



くぐった状態。



親指にかかった糸はずします。

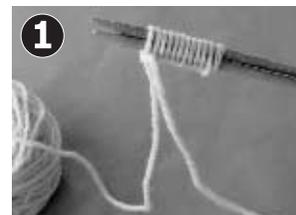


短い方の糸の下に親指を入れます。

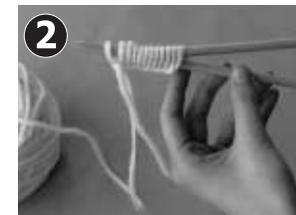


親指で糸を引くと2つ目の目ができます。⑨~⑬を繰り返して、目を作ります。

作り目ができたら、あみ針を1本抜き取りましょう。



作り目が終わった状態。



2本ある針の1本を抜き取ります。



目が残っている針は左手に、抜き取った方の針は右手に持ちます。